

# 新館矢間

しんたてやま

館矢間・大張・耕野

学び

館矢間小学校 校内研修通信 第1号

文責 千葉

## 低学年部の研究授業 お疲れ様でした

### =第1学年の授業実践=

【教科・単元名】生活科「がっこう だいすき」

【視点1 地域や人とのつながりを意識した学習活動の重視】

手立て①体験活動を生かした課題設定

・学校探検での先生方や上級生との関わりを記録・蓄積した「たて小なかよしマップ」を活用する。

【本時のねらい】授業中、教室で地震が起きた際、自分の命を守るためにはどうしたらよいか考えることができる。

5月20日（金）1年1組 【授業者 千葉 織江】



単元計画及び指導案について学校防災アドバイザーの柴山先生よりご助言をいただき、授業に臨みました。

- ・防災は実践
- ・日頃からの学年同士の関わり合い（活動）が大切→自分たちで行動できる力を身に付けさせる。
- ・2か年の単元計画作成の際は、変化をつけて児童が興味関心を持続させることができるようにする（新しい場所・物を追加していく）。

#### ○成果

- ・「たて小なかよしマップ」を活用した導入が効果的だった。
- ・防災に詳しい野田先生と問答、対話をしながら身の守り方を実践することができたのが良かった。
- ・タブレットで児童が身を守る姿を撮影したものを振り返りで活用したのが良かった。

#### ☆次の授業へのつなぎポイント

- ・ワークシートをカラーにし、危険個所の印をつけやすくする。
- ・ワークシートの絵と実際の教室を比較させる。
- ・机の下ではお姉さん座り、机がないときは、後頭部を自分手と腕でしっかり守る指導を行う。



1年1組の先行授業を受け、つなぎポイントを全て実践して下さった藤谷先生と野田先生。これまで、3つの授業検討を進めて下さった低学年部の先生方、ありがとうございました。放課後に全員で行った事後検討会では、視点以外にも、たくさんの成果を共有することができました。

#### ○成果

- ・「たて小なかよしマップ」から、野田先生の紹介がスムーズだった。
- ・導入時の地震のイラストが効果的だった。
- ・学習習慣が身に付いており、ペアでの学び合いが確立されていた。
- ・危険箇所を見つける活動から身の守り方の実践への流れが分かりやすかった。
- ・野田先生との身の守り方の実践が良かった。
- ・振り返りのワークシートが工夫されていた。

#### ☆次の授業へのつなぎポイント

- ・ワークシートに書いた個人の振り返りを全体で共有する時間や共有方法を検討していく。
- ・命を守る行動の大切さと身の守り方を繰り返し指導していく。

### 校内研修「令和元年東日本台風災害の教訓」 国土交通省 東北地方整備局 南部復興事務所長 水越 崇様

事後検討会の中でミニ研修を行いました。示唆に富むお話の中から、5つの教訓をご教示いただきましたので、授業の中に取り入れ、児童とともに学んでいけたらと思います。

- |     |   |
|-----|---|
| 教訓1 | 経験したことの無い大雨は、経験したことの無い現象と被害をもたらす<br>→雨量データの意味を考える力を身に付けさせる。 |
| 教訓2 | なぜ宮城県側の阿武隈川は破堤を免れたのか<br>→台風と同じ方向に流れている川は被害が大きくなりやすい。        |
| 教訓3 | 丸森だから起きた現象<br>→花崗岩が風化して土砂洪水災害になる。                           |
| 教訓4 | その土地の歴史から学ぶ災害リスク<br>→治水との関係を考える。                            |
| 教訓5 | 教訓を風化させない、後世に伝える<br>→ワークショップやシンポジウムを実施し、伝える活動を継続する。         |

## =第2学年の授業実践=

【教科・単元名】生活科「どきどきわくわく町探検」

【視点1 地域や人とのつながりを意識した学習活動の重視】

手立て①体験活動を生かした課題設定

・館矢間小学校が避難所になった時の備品を実際に見て、その使用目的を知る。

【本時のねらい】

○絵や写真を見て、避難所とはどんなところかを知ることができる。

○館矢間小学校は避難所であることを知り、そのための備品や物資があることがわかる。

6月6日（月）2年1組 授業者【大槻 辰哉先生】



1年2組の事後検討会を受け、ワークシートに書いた個人の振り返りを全体で共有する時間を十分に確保できるよう指導過程を工夫して授業を進めていただきました。大槻先生、ありがとうございました。

### ○成果

- ・導入時にタブレット端末(みやぎタッチ)を活用して写真を拡大したり、丸で囲んだりしたことで、焦点を絞って提示できた。
- ・防災倉庫にある食料、防災テント、段ボールベッド、ライトなどを実際に見ることで学校が避難所としての役割を果たすことを理解することができた。
- ・「何のために備品や物資があるのか」という視点を児童に与えていたのが良かった。
- ・振り返りを全体で共有し、被災者の思いや願いに気付くことができた。

### ☆次の授業へのつなぎポイント

- ・調べて分かったこと（見つけたもの）を記録する活動を取り入れる。
- ・「学校は安全なところ」＝「避難所になる」ということを伝えていく。

今後、館矢間まちづくりセンター、大張まちづくりセンターでも避難所について学びながら町探検を予定している2年生。その様子を校内研修通信でお伝えしていきます。